

二〇二四年三月二日（明石句会・参加者八名）

木洩れ日のさしてまた燃ゆ落椿	せいじ
カメラ女子長閑大砲レンズ抱き	せいじ
のどけしやふたご櫓の城構へ	せいじ
池塘なる木々のあはいに風光る	せいじ
ライバルへ威嚇の叫び鳴突進	千鶴
春天に響く球児の弾む声	千鶴
春光の煌めき池の遠近に	千鶴
落椿小暗き道に点りをり	わかば
濠端の風になびける柳の芽	わかば
日射すとき命輝く落椿	わかば
木洩れ日に蘇りたる落椿	みきえ
球児らの声高らかや芝青む	みきえ
ベンチいまペンキ塗りたて芝青む	恵子
右の耳左の耳に囁れる	せつ子
春山の尾根行く人の声聞こゆ	きよえ

月例句会みもの選

二〇二四年三月二日（明石句会・参加者八名）